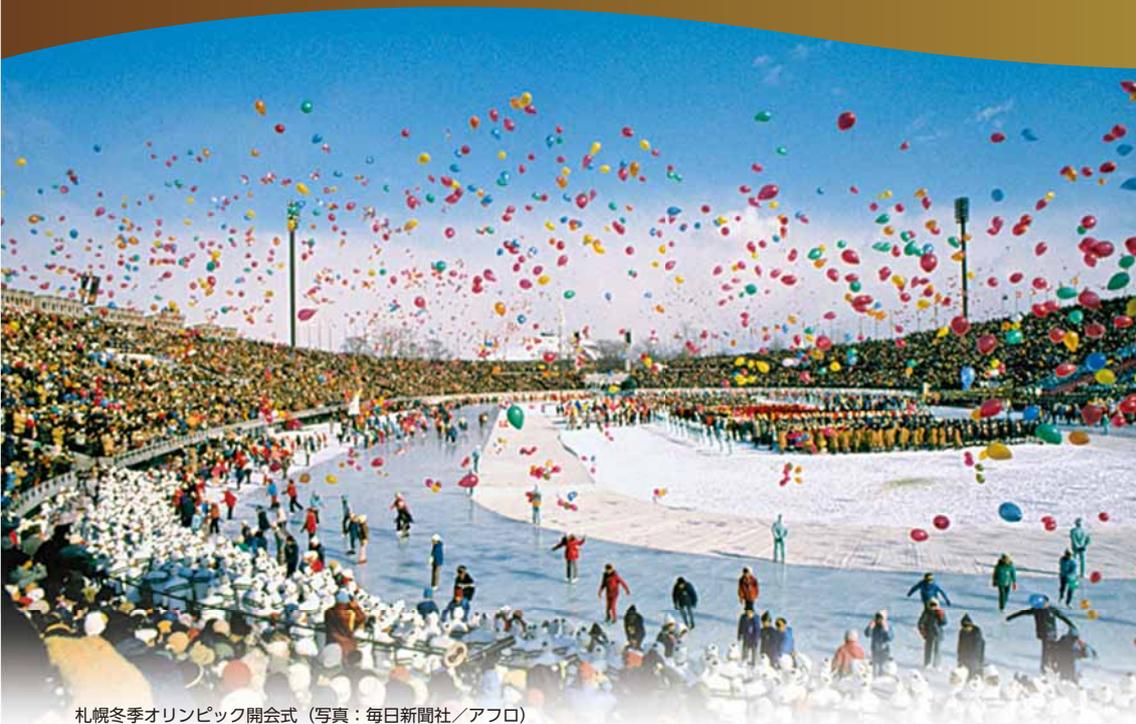


札幌に冬季オリンピック・パラリンピックを

～開催概要計画案がまとまりました

2026年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けた計画案が完成しました。この特集では、本市が目指す大会のコンセプトや概要を紹介します。

[詳細](#) 招致推進部調整課 ☎211-3042



札幌冬季オリンピック開会式 (写真: 毎日新聞社/アフロ)



写真提供: フォート・キシモト

1972年の冬季オリンピックの財産を生かし、札幌ならではの大会に

2014年11月に招致を表明してから、どんな大会にするのか検討を進めてきましたが、このたび、開催概要計画案が完成しました。

オリンピック・パラリンピックの開催は、子どもたちの夢や希望を持つ心を育むとともに、超高齢社会など時代に合わせた街に変える契機となります。そして、ウインタースポーツを通じて世界から多くの人に訪れてもらい、北海道全体の活性化にもつなげていきたいと考えています。

2026年大会では、前回の大会で得た財産を生かし、次の世代に大きな負担を残さず実施できる、札幌らしい大会モデルを提案します。

50年先、100年先の未来を見据えたまちづくりの取り組み「オリンピック・パラリンピックの招致」には皆さんの応援が大きな力となります。ぜひ計画案をご覧ください、ご意見をお寄せください。



札幌市長 **秋元 克広**

開催概要計画とは？

2026年冬季オリンピック・パラリンピックについて、開催した場合の競技施設の配置など、大会運営の全般をまとめたもの。

計画書は市民の皆さんの意見を踏まえ、今年秋までに日本オリンピック委員会(JOC)へ提出する予定です。

開催都市決定までの流れ

2016年

- 秋ごろ、国・JOCが2026年大会の立候補の可否を判断
- 日本が立候補を表明した場合
- 札幌市が正式に立候補を表明

2017年

- JOCが国内候補地を1都市に決定
- 国際オリンピック委員会(IOC)に立候補ファイルを提出

2019年

- IOC総会で開催都市が決定

基本理念

札幌らしい持続可能な オリンピック・パラリンピックに

札幌・北海道の豊かな自然と、施設や道路などの都市機能を生かし、将来に過度の財政負担を残さず、環境に配慮した「人と地球と未来にやさしい大会」の実現を目指します。

将来も持続する大会モデルを 世界に発信していきます

札幌は、豊かな自然、競技施設、交通網などが充実しており、また、数多くのスポーツ大会を開催してきた実績もあります。これを最大限生かし、今後もオリンピック・パラリンピックを永続して開催できる、札幌発の大会モデルを提案します。

豊かな自然・競技施設



都市機能の充実



大会をきっかけとして 全ての人にやさしい街をつくります

札幌オリンピックから44年が経過し、当時建てられた施設などを更新する時期にきています。大会を契機に、高齢者や障がいのある方も暮らしやすい、バリアフリーなまちづくりへの動きを加速させます。

札幌を世界に誇る ウィンタースポーツ都市にします

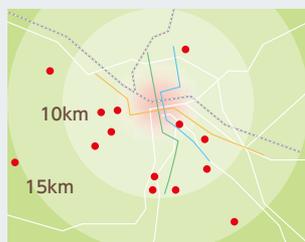
世界水準の競技会場や合宿施設など、トップ選手が集まる環境を整備。国際大会の誘致をさらに進めて、ウィンタースポーツ都市としての地位を高めていきます。

2026年大会の目指す姿

全ての選手に最高の舞台を提供するとともに、世界中から訪れる人々を魅了するオリンピック・パラリンピックにします。

コンパクトな施設配置

会場は都心から15km圏内に配置。選手の負担を少なくするため、会場の9割は選手村から30分以内で移動できるようにします。



●は競技会場

札幌オリンピックの競技施設を活用

競技施設の新設は行わずに、札幌オリンピック時の施設を改修、建て替えて利用。過去の大会の歴史を未来に引き継いでいきます。



札幌オリンピックでアイスホッケーの会場となった月寒体育館

環境にやさしい大会に

建設時の材料には道産木材を利用するほか、水素エネルギーや太陽光発電などの再生可能エネルギーを駆使し、環境に配慮した大会を目指します。

札幌ならではのおもてなしを

良質な宿泊施設や北海道の豊かな食を提供するほか、雪や氷を楽しめるイベントを開催するなど、訪れる全ての方が快適に過ごせる環境づくりを進めます。

つどーむ

2026年大会の概要

オリンピック Olympics

パラリンピック Paralympics

開催期間

2月6日(金)～22日(日)の17日間

開催期間

3月6日(金)～15日(日)の10日間

競技数 7競技98種目

スキー、スケート、アイスホッケー、
ボブスレー、リュージュ、
カーリング、バイアスロン

競技数 5競技72種目

アルペンスキー、バイアスロン、
クロスカンリースキー、
アイススレッジホッケー、
車いすカーリング
★のある会場で行います

北海きたえーる★

月寒体育館★

札幌ドーム★

福住・月寒
ゾーン

西岡バイアスロン競技場★

白旗山競技場★

福住・月寒
ゾーン

真駒内
ゾーン

札幌オリンピックの歴史を
最も引き継ぐ地域。
スケート競技の拠点になります

真駒内公園屋内競技場

12,000席の観客席を誇る、フィギュアスケート、ショートトラックの競技施設に造り替えます。



真駒内公園屋内競技場を建て替えた場合のイメージ

真駒内公園屋外競技場

札幌でスピードスケートを行う場合の候補地。屋根付きの会場に建て替え、大会後も多目的に利用できるようにします。



写真提供：フォート・キシモト

スピードスケートは帯広市で行うことも検討しています

オリンピック・パラリンピックを次世代に伝える新たな拠点

札幌ドーム

北海道のアイヌ文化を発信するほか、情報通信技術を活用して選手と観客が一緒に楽しめる開会式を目指します。



選手村(札幌ドーム隣接地)

選手が快適に過ごせるように、トレーニング施設だけでなく、飲食店、レジャー施設などを設置し、日本のおもてなしの心を生かしたサービスを提供します。



手稲 ゾーン

手稲山を拠点に、
ボブスレーなどのそり競技や
スキー競技を行います

テイネスキー場

札幌オリンピックのボブスレー会場を建て替え、アジアにおけるそり競技の拠点に生まれ変わります。ここでは、そり競技やスキーフリースタイル、スノーボードを行います。



写真提供：フォート・キシモト

ニセコゾーン★

スキーマルペン競技は
ニセコ地区で開催

標高1,308mのニセコアンヌプリを利用し、スキーの滑降など、迫力あるスキーマルペン競技を行います。



INTERVIEW

オリンピック選手 パラリンピック選手にインタビュー

オリンピックは選手なら誰もが夢見る大舞台。それが、私の故郷である北海道で開催され、大会が持つ独特の熱気や緊張感、感動をみんなで分かち合えると思うと今からワクワクします。これをきっかけにスポーツの魅力をもっと感じてもらえたらうれしいですね。

ソチオリンピック 女子スキージャンプ日本代表
高梨 沙羅さん



私は難病で入院中に長野パラリンピックの開催を知り、大きな夢を持ちました。北海道・札幌で開催されることで、障がいの有無に関わらずウィンタースポーツを身近に楽しみ、夢を持つことができる街になるように、一緒に盛り上げていきたいと思えます。

バンクーバーパラリンピック
アイススレッジホッケー銀メダリスト
ながせ みつる
永瀬 充さん



大倉山・ 宮の森 ゾーン

札幌オリンピックで
日本人選手がメダルを独占した
宮の森ジャンプ競技場がある
スキージャンプ競技の拠点

大倉山・宮の森ジャンプ競技場

数々の国際大会を開催してきた伝統ある競技場。最小限の改修を施し、環境に配慮したオリンピック施設の象徴を目指します。



写真提供：フォート・キシモト

ばんけいスキー場

都心から約20分のアクセスの良さを生かし、スキーフリースタイルやスノーボードを行います。

費用と効果

オリンピック・パラリンピックを開催したときに掛かる費用

2026年の物価の上昇を考慮すると、スピードスケートを札幌で開催する場合は総額4,565億円、札幌市など開催地の負担額は1,102億円を見込んでいます。

試算の前提

- 競技施設建設費は、オリンピック・パラリンピックで求められる規模を基に計算
- 大会運営費は、過去の大会の事例を基に、会場使用料やセキュリティー費用などを積み上げ
- 2026年時点の開催経費を算出するため、物価上昇率(年1.2%)を見込んで試算

スピードスケートを札幌市か帯広市のいずれかで開催する2つの案があります

札幌市の場合、真駒内公園屋外競技場を屋根付きのスピードスケート競技会場に建て替えて利用し、帯広市の場合、屋内リンク施設「明治北海道十勝オーバル」を改修して利用することを考えて試算しています。



真駒内公園屋外競技場(イメージ)



明治北海道十勝オーバル

	試算1▶札幌市で開催する場合		試算2▶帯広市で開催する場合	
	総額	札幌市などの負担額	総額	札幌市などの負担額
競技施設建設費	1,044億円	261億円	780億円	195億円
選手村・メディアセンター等建設費	1,057億円	372億円	1,057億円	372億円
大会運営費	2,436億円	452億円	2,463億円	466億円
招致経費	28億円	17億円	28億円	17億円
開催経費合計	4,565億円	1,102億円	4,328億円	1,050億円

冬季オリンピック・パラリンピックが札幌・北海道にもたらす経済効果

道内への経済波及効果

8,850億円

道内の雇用が生み出される人数

70,000人

選手村や施設の整備などにより新たな需要が増えると予想されており、経済効果は開催経費の約2倍に！さらに過去の開催国では、招致決定後から長年にわたって観光客が増加しており、道内においても国際スポーツ大会の継続的な開催などを通じて、海外から来訪者が増え続けることで、さらなる効果が見込まれます。

※スピードスケートを札幌市で開催する場合

Q 市民1人当たりの負担はいくらになるの？

A オリンピック・パラリンピック開催が決定してから40年間で、開催地の負担額を支払うと仮定した場合、利子も含めて毎年およそ28億円ずつ支払うことを想定しています。

これは、市民1人当たり年間で約1,500円分に相当します。

Q 今後、開催地の負担が増えることはないの？

A 国からの支援や民間資本を積極的に活用する方法など、さらに検討を進めて開催地の負担を減らすように努力していきます。

大会後の街

超高齢社会に対応した ユニバーサルデザインの街に

札幌は1972年大会を契機に国際都市へと発展しました。2026年大会でも過去の記憶を受け継ぐとともに、高齢化など時代に合わせたまちづくりを進めていきます。

オリンピック・パラリンピックの開催を通して街全体がリニューアル

パラリンピックを契機として 誰もが活躍できる街に

街のバリアフリー化を進めるとともに、障がいへの理解を深める教育や障がい者スポーツの大会を積極的に開催するなど、誰もが生き生きと輝ける街を実現します。

民間施設の更新が進み、 札幌の街が新しく

ホテルのグレードアップやビルの建て替えなど、民間の投資を促し、1972年大会の前後に整備された都市基盤の更新が進みます。



ウィンタースポーツで 世界をけん引する都市に

選手育成のための環境を整備

トップ選手が夏場も利用できる練習施設や合宿施設を整備。世界の競技者に支援を行い、札幌をウィンタースポーツの国際競技力を高める拠点にします。

札幌・北海道経済をさらに元気に

道内の市町村と連携し、北海道の魅力を国内外に発信。ウィンタースポーツをはじめとした観光資源を生かして、世界中から人々を引き付けます。



写真提供：フォート・キシモト

選手村の跡地を 先駆的なまちづくりのモデルに

人と環境にやさしいスポーツビレッジを実現

スポーツ施設や障がいのある方の就労支援施設などが共存し、環境にやさしいエネルギーを活用した、オリンピック・パラリンピックを象徴する新たな空間に生まれ変わります。



開催概要計画案への
ご意見を
お寄せください

開催概要計画案は、6/1(水)から区役所、ホームページ(www.city.sapporo.jp/sports/olympic/menu.html)などで配布します。多くの皆様のご意見をお待ちしています。

意見の送付先

招致推進部調整課(〒060-0002中央区北2西2STV北2条ビル内)
ファクス 211-3046、Eメール olypara@city.sapporo.jp